

協働のかたち ③ メーカーとの協働

ひろば

連載：建築生産における協業を考える 第3回

覗いてみました他人の流儀

海外レポート

各支部活動報告 九州支部

未来へ継承したい風景

良質な建築、これからのまちづくり

オンラインセミナーの舞台裏

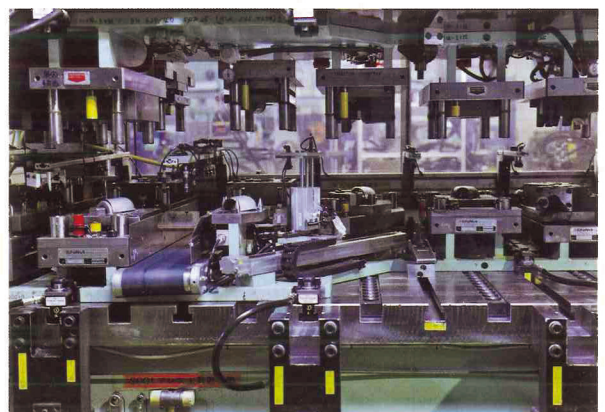
温故知新

活動報告

建築ウォームアップ

卒業設計をふりかえる

次世代のタマゴたち



「小住宅こそオンライン見学会」part 2

一本番から、その後の動画編集

JIA YouTube へのアップロードまで



アーバントリップ
実行委員会
中村雅子
(本企画コーディネーター)

前回に続き、今号ではZoomオンラインの本番から動画編集 YouTube アップロードまでをご紹介します。

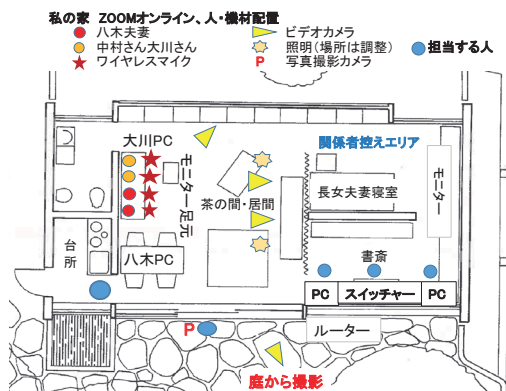
Phase 6：本番および、その後の動画配信

生中継 生中継はプロデューサーとして衛星中継を何度か経験しましたが、機材と人、現場構築が絡むとコントロールが難しくなります。ですからできるだけ機材はシンプルに、人は少なく、そして全体をコントロールする体制が大事です。今回は4台のカメラを立体的に配置しましたが、私も含めてスタッフ2名と少ないので、映像の提供だけになりました。配信は、技術的に①有線回線、②カメラ割、③音処理、④スイッチング、⑤ズームコントローラーがポイントです。庭の巨木と「私の家」を1カットで押さえる庭にもカメラと照明をセットし、映像はワイヤレスで飛ばしました。上手くいったところ、失敗したことなどいろいろですが貴重な経験をさせていただきました。

ここ数年インドの聖地を旅して仏陀生誕地ルンビニで丹下健三設計の公園を撮りましたが、いまなお建設が続いているカオス的空間とは対極の家族のための空間、その書斎から望む風景は、違いのわかる建築家の心にわずかながら触れたような気がして余韻が残りました。(浜谷修三)

通信 Zoomで現場から発信するのに、インターネット環境がないことが最も苦労心配しました。特殊な送信機をレンタルし、現場から専用の電波を飛ばし、人形町のスタジオで受信してインターネットに載せることにしました。

主催者PCとしては事前撮影の動画再生、Zoomコントロールが大変負荷がかかるので、Zoom用サーバーをレンタル。私はその横でカメラの切り替え作業にあたりました。図に示したようにたくさんの役割がありますが、委員全員で協力して実施できたことが大変よかったと思います。(神村正晴)



オンライン配信当日の役割分担



「私の家」にて 左から大川委員、八木ゆり様、八木幸二様、中村委員

Zoom管理 私が担当したのはZoom画面管理です。Zoomが世に出始めまだ十分に使われていない時期に、たまたまZoomホストを何度か行ったという個人的経験からの役割でしたが、100人の参加の管理+事前撮影映像+ライブ映像+スポンサーCMなど、切り替えるべき画面が多く、それに加えそれらの音声のミュートのON/OFF、キュー出しなど、慣れない中では大変なことで不手際も多く、参加された方にはご迷惑をおかけしました。懇親会も入れると合計約3時間Zoomに張り付いていたので、かなりの疲労感を覚えました。しかし後で多くの方から見学会への感謝や賛辞の声をいただき、やって良かったと感じています。(南知之)

質疑・応答 ライブでの質疑・応答は、参加申込時に記入いただいたものと、委員からの質問を含め、事前に八木夫妻に確認と回答をいただきました。質問が多かった「私の家」の住人の変遷と増改築などのメンテナンスについては、「私の家年表」を作成し事前配布することで、分かりやすくしました。当日の配信では、コロナウイルス対策のためフェイスシールドを付けてのやりとりとなりましたが、声がこもりがちなので、ピンマイクは必須だと思います。(大川直治)

まとめ 八木ゆりさんからは「(今までの日曜美術館テレビなどにも比べ)見ていただきたいところを全部紹介いただけました」。八木幸二さんからは「(今まで)多くの方にごお越しいただいたが、時に説明している声が届いていないか不安でありましたが、今回のようにきちんと皆に話を伝えることができることが分かり、オンラインならではのメリットを感じました」とのお言葉をいただき、「小住宅こそ、オンラインの見学会」だと思いました。

なにより今回の配信では図面にもテレビにも発表していない「地下」の撮影をさせていただき、「コンテナ撤去の動画」も紹介しました。この2点は初お披露目でした。また、本部のYouTubeチャンネルから動画配信を行ったことで、全国の方が見てくださり、〇〇回の視聴をいただいております。(中村雅子)

※開催概要と執筆協力者は前号に掲載しました。